

2016 年度湘南藤沢学会「研究助成基金」成果報告書

台湾の国立交通大学建築学科とのワークショップ及びアジアの最新建築動向調査のための合宿

慶應義塾大学 環境情報 学部3年 武田佳子

1.活動日程・場所

9月6日～9月8日

台湾の国立交通大学及び台北や台中の新たに建てられた建物の見学

2.活動の目的

現在、本研究と交流している台湾の国立交通大学建築学科とそれぞれの研究プロジェクトの進捗状況に関する発表や都市・建築のワークショップ、および研究に関連する都市・建築を見学することを目的とし、アジアの最新建築動向を把握する。

池田靖史研究会では研究として2つの目標があります。一つは最新開発されている多様な技術を試してみることだ。それらにかけている研究とはDigital Constructionという様々なソフトウェアとハードウェアの効率的な利用方法と使い方に関する発表やミーティングが行っている。詳しくは Algorithmic design、3D modeling、BIM、ロボットの自動制御、現場情報の見える化、センシング、情報空間の見える化の項目があって、ソフトウェアとハードウェアを実験しています。この Digital Constructionは実験だけで終わらず、他の研究とつながって利用できる方法も実験しながら、調べている。例えば、ZEHというSFCに建てている慶應型共進化住宅に次の段階のためにモデリングやセンシング、実測などの繋がり、Eloveという口永良部島で住民たちのためにもの作りを行っているのに、遠いところまで毎回行けないので、3DモデリングやARなどを活用するシミュレーションをしている。

もう一つは慶應型共進化住宅というエコハウスに関する研究だ。建てられて何年が過ぎたが、実験受託として進化されている。今は次の慶應型共進化住宅を作るためにいろいろな側面で調査しているところだ。

他の研究もありますが、毎年行っている池田靖史研究室の夏合宿に今年の注目する研究で、建築の研究室として実際にコンピューター技術を利用して建てられた作品の見学することとエコハウスに関する他の学校との交流が必要だということが提案が出てきた。今年の夏合宿は最近建てられた日本の建築家伊東豊雄の台中国立歌劇院の見学とソーラーデカスロンというエコハウスのコンペに参加している台湾の国立交通大学建築学科との情報共有やエコロジー都市・建築のワークショップや見学が台湾に行くことになったきっかけだ。

つまり、コンピューターの技術を活用して建てられた建物とエコロジー都市・建築を見学することと学部生・院生あるいは他大学生とのワークショップや交流活動を踏まえた研究会合宿を目的とする。

3. 活動の成果

池田研究会で行っている研究は都市計画からもの作りまで建築に基づくいろいろな研究が行っているところだ。特に、コンピューターの技術を活用する課題が多いので、今回の合宿においた効果は実際にコンピューターの技術を活用して建てられた建物を見学し、今後自分の研究や仕事に関して再考することができること。そして、台湾には建築家伊東豊雄の最新の作品を始めて、注目されている最新の建築が建てられているので、アジアの最新建築動向が見られた。そして、エコハウスに関する研究が他の学校ではどんな方針によって教育もらっているか、あるいはエコロジーに関してはどんな考え方を持っているのかも確かめられて意見交流ができた。ちなみに、国立交通大学建築学科との短期ワークショップで自分の能力を表す機会があった。

もう一つは池田研究室の学生や先生の親睦を深めることになった。普段は研究室でプロジェクトに励み主に研究に関する話題が主となるが、合宿という機会に研究以外の話をすることでお互いの理解を深める機会があった。秋学期にはORFという一大プロジェクトを控えていることもあり、所属学生同士、また、先生との連携がよりスムーズになることを期待する。



・台湾大学社会科学部棟（コンピューターの技術を使って建てた）
池田先生が設計した台北駅の内部
伊東豊雄の最新の作品

4. 今後の活動

毎年池田研究室は夏合宿が行っているのですが、今までは国内の見学しかなかった。今回の合宿は台湾で行い、耳目が広められた。さらに国立交通大学建築学科との短期ワークショップも旨くできたので、今後は交流されている他学校とのワークショップや短期建築コンペ(即日設計)等が広がると期待されている。

5. 謝辞

ご指導いただいた池田教授をはじめ、池田研究室のメンバー、国立交通大学建築学科のデイビッド

教授、学生皆様、そして学会参加のための助成金をいただいた湘南藤沢学会様の支援により、今年の夏合宿が無事に収まりました。心より御礼を申し上げます。